



与謝野晶子『新訳源氏物語』

上巻 1912(明治45)年6月7版

中巻 1912(明治45)年7月再版

下巻一 1913(大正2)年8月

下巻二 1913(大正2)年11月

金尾文淵堂 装幀・挿絵 中澤弘光

山梨大学附属図書館近代文学文庫蔵

与謝野晶子「源氏物語」朝顔 草稿

「源氏物語」二十帖「朝顔」の現代語訳。

晶子は少女の頃から「源氏物語」に親しみ、生涯において三度の「源氏物語」現代語訳を試みた。

やさしいことばに訳された作品は、現代まで版を重ね読み継がれている。

特設展

それぞれの源氏物語

そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

それぞれの源氏物語

2023(令和5)年10月28日(土)~12月17日(日)

世界最古の長編小説と言われる「源氏物語」は、
後世の文学、美術に多大な影響を与え、時代を超えて人々を惹きつけてきました。
本展では、与謝野晶子、谷崎潤一郎、円地文子、瀬戸内寂聴、林真理子など、
近代以降、多くの作家が挑んだ「源氏物語」の現代語訳を、
その魅力とともに紹介します。



谷崎潤一郎『潤一郎新訳源氏物語』全12巻
1951(昭和26)年5月~1954年12月 中央公論社
装幀 前田青邨
戦前に刊行された『潤一郎訳源氏物語』は、時局の影響
で削除や改変を強いられた。戦後、全面的に改稿し「新
訳」として現代語訳を刊行した。



樋口一葉旧蔵 北村季吟「湖月抄」

一葉は歌塾・萩の舎で「源氏物語」を講義し、「雨夜の品定め」などを得意とした。「源氏物語」をはじめとする王朝文学は、一葉の初期の小説のモチーフとなった。



円地文子「源氏物語」桐壺 原稿 個人蔵

円地文子は、「源氏物語」現代語訳に5年近くかけて取り組み、全10巻(1971年~1973年 新潮社)を刊行した。序文には「現代の読者に出来るだけ気難しくない言葉で語りかけたい」とある。

読み方を花束にして

山崎ナオコーラ

文字は長生きだ。

一度書かれたものは、なかなか消えない。原稿が捨てられても、誰かが書き写したものが残る。写本や印刷本がすべて損なわれても、誰かの記憶に残っていれば復活することもある。時代を経て、その言葉を書き写すに書いた話したりする人がいなくなっても、誰かしらが研究し、読み解く。

『源氏物語』は、千年のときを超えて残ってきた。千年の間、読者はみんな読み方を考えてきた。

そう、物語作りには、作者だけでなく、読者も参加する。

文章表現を変えてしまうことだってある。『源氏物語』が制作された時代に印刷技術はないから、書き写しによって広まった。写されたものを読んで、さらに写す。まるで伝言ゲームのように、言葉遣いや文末などが、良くも悪くも変化した。「青表紙本」「河内本」など、写本の系統によって、少しずつ違うのも面白い。

日記や注釈書を書いて『源氏物語』の読み方を後世に伝えた人もいる。たとえば、『更級日記』に「后の位も何にかはせむ」と少女時代に夢中になった気持を綴った菅原孝標女がいる。『源氏物語玉の小櫛』で「ものあはれ」を提唱した本居宣長もいる。次の時代の読者は、前の時代の読者たちがどのようにその物語に触れたのか、読書記録や研究を参考にしながら、自分の読み方を見つけていく。

実はキャラクター名も、『源氏物語』の場合は読者が主に考えている。原文には主語があまり使われていない。作者の紫式部は、キャラクター名をほとんど付けずに物語を綴ったのだ。当時は、高貴な人の名前を呼ぶのはマナー違反という考えがあったようで、名前を避け、敬語でその動作の主体を推測させる書き方をした。あるいは、役職や部屋で表す。でも、出世する度に変わる役職名や宮中の部屋の名前などの知識を持つ読者はあまりいないし、時代と共にマナーや文法も変化するわけで、名前のないキャラクターを追いかけることに難しさを感じる

読者が増えていく。

「名前がないと、読みにくいよね」「じゃあ、あだ名つけちゃおうよ」「このヒロインは、夕顔の花が咲く家に住んでいたんだよね。通りすがりの光源氏がその花に目を留めたら、ヒロインが夕顔の歌を扇に書いて、その扇の上に花を載せて光源氏にプレゼントしたんだよ」「じゃあ、このヒロインは『夕顔』ってあだ名にしよう」「そうしよう」……なんていう会話が合ったかどうかはわからないが、ともかくも登場人物たちにあだ名がつけられて、それは後世の読者の共通認識になった。今でもほとんどの現代語訳で、読者の考えた名前が使われている。

赤い鼻を持つヒロインは紅花にちなんだ歌を光源氏に詠まれてしまったので、未摘花（紅花の別名）。

光源氏の最初の「正妻」は、葵祭（賀茂祭）における車争いが名シーンになっている「葵」の巻のヒロインなので、葵の上。

前の時代の読者たちが、次の時代の読者が楽しく読めるようにキャラクター名を花束にして、プレゼントしてくれた。

私たちが現代人も、次の世代の読者へ何かを花束にしてプレゼントできないだろうか。

未来の『源氏物語』の読者はきっと、私たちよりもさらに読みにくさを覚えるだろう。言葉やマナーはどんどん変化し、人権意識を強く持つようになる。差別的な事柄も含まれるこの物語を、どう楽しめばいいか戸惑うこともあるに違いない。

読者は、自分が生きる時代と場所と共に本を味わう。実際に過ごしている時代や今いる場所から離れた読書はできない。

私たちは菅原孝標女のような読書はできない。もう、言語センスも、調度品も、常識や人権意識も、平安時代とは違うのだ。だから、むしろ今だからこそできる読み方を追求してはどうだろうか。

なぜ古典を読むのか。それは今を忘れて、未来を考えずに、昔に戻ることはない。今、ここで、本を読み、未来にどう伝えるのかを考えるのだ。

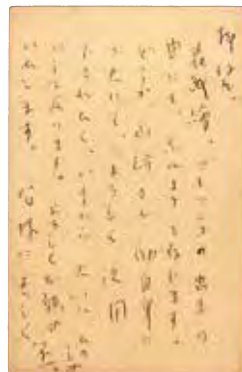
未来の『源氏物語』の読者に、読み方の花束を届けたい。

（作家）

新収蔵品展

2024年1月27日(土)
～3月24日(日)

2022年から2023年にかけて新たに
収蔵した太宰治の葉書、飯田蛇笏、
飯田龍太の書画などの資料を展示
します。観覧無料。



太宰治 山崎剛平宛葉書 1939(昭和14)年6月12日消印

常設展

第1室～第4室(展示室A)

樋口一葉、芥川龍之介、飯田蛇笏など山梨県出身・ゆかりの作家を紹介する各コーナーの
展示替えとともに、第1室で期間限定展示を次のとおり行います。

秋の常設展

「昇仙峡名勝指定100周年記念 昇仙峡を訪れた文学者たち」

2023年8月29日(火)～12月3日(日)

冬の常設展「作家の肖像Ⅱ 芥川龍之介」

2023年12月5日(火)～2024年3月3日(日)

第5室(展示室B)

山梨県出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期に分けて展示しています。

後期:詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

2023年9月26日(火)～2024年3月3日(日)

イベントガイド

各イベントはすべてお申し込みが必要です。

各イベントの詳細は当館ホームページ、チラシをご確認ください。

特設展「それぞれの源氏物語」関連イベント ①～④

①②③ のイベントについては、電話またはホームページの「イベント」欄の申込みフォームから
お申込みください。④ については、お電話のみでのお申込みです。
先着順で定員になり次第締切となります。

1 朗読公演会 紺野美沙子の朗読座「源氏物語～紫のゆかりの物語～」

10月29日(日) 午後1時30分～午後3時20分
出演:紺野美沙子(俳優)、中井智弥(二十五絃箏者)
会場:講堂 定員:500名 無料



紺野美沙子氏

2 講演会 『源氏物語』その面白さの秘密

11月11日(土) 午後1時30分～午後3時
講師:林 望(作家・国文学者)
会場:講堂 定員:500名 無料

3 講演会 樋口一葉の和歌と『源氏物語』

12月9日(土) 午後1時30分～午後3時
講師:兵藤裕己(学習院大学名誉教授)
会場:講堂 定員:250名 無料

4 つまみ細工で梅アクセサリを作ろう

12月17日(日) 午後1時30分～午後3時30分
講師:飯島 薫(つまみ細工作家)
会場:研修室 定員:20名(小学生以上)
材料費:500円

申し込み方法:
11月1日(水)よりお電話でお申込みください。

川柳を詠もう

10月22日(日) 午後2時～午後3時30分
講師:井上信太郎(川柳作家・「甲斐野」発行人)
会場:研修室 定員:高校生以上30名
(結社に所属していない方) (初心者・経験者は問わない) 無料

申し込み方法:
9月1日(金)よりお電話で
お申込みください。

短歌教室

12月16日(土)
午後1時30分～午後3時30分
講師:三枝浩樹(歌人)
定員:40名 会場:研修室 無料

申し込み方法:
*往復はがきでお申し込みください。1枚で1名までご応募いただけます。
締切11月10日(金)必着
往信欄裏面に①郵便番号、②住所、③氏名(ふりがな)、④電話番号、
返信欄表面に①郵便番号、②住所、③氏名をご記入のうえ当館まで
お申し込みください。
*申し込み多数の場合は、抽選のうえ結果を後日お送りします。

声に乗せて味わう児童文学～原きよ 朗読教室～

2024年1月28日(日) 午後1時30分～午後3時30分
定員:20名(小学校3年生以上、大人も参加可)
講師:原 きよ(朗読家/アナウンサー)
会場:研修室 無料

申し込み方法:
11月17日(金)よりお電話で
お申込みください。

年間文学講座

*講座1、2ともに午後2時～午後3時30分 会場:講堂または研修室 定員:100名 受講料:無料
*電話にてお申込みください。先着順で定員になり次第締切となります。
各回、申込開始日が異なりますのでご注意ください。

講座1「『源氏物語』「須磨」「明石」巻 —光源氏の挫折と復活を周辺人物との関わりから読む—

講師:池田尚隆(山梨大学名誉教授)

10月28日(土)	光源氏と桐壺院・朱雀帝・弘徽殿太后	(申込開始日 10月14日)
11月25日(土)	光源氏と明石の上	(申込開始日 11月11日)
12月23日(土)	光源氏と「明石」巻の紫の上	(申込開始日 12月 9日)

講座2「近代文学における「光源氏」的な男たち」

講師:古川裕佳(都留文科大学教授)

10月13日(金)	谷崎潤一郎「痴人の愛」育った妻の裏切り	(申込開始日 9月29日)
11月10日(金)	谷崎と源氏物語	(申込開始日 10月27日)
12月 8日(金)	谷崎潤一郎「台所太平記」文豪最後の夢	(申込開始日 11月24日)

講座3 当館の学芸員が講師を務めます 中野和子(当館学芸員)

11月12日(日)	「源氏物語」現代語訳のたのしみ	(申込開始日 9月12日)
-----------	-----------------	---------------

*午後2時～午後3時10分 会場:研修室 定員:60名 受講料:無料
*電話にてお申込みください。先着順で定員になり次第締切となります。

名作映画鑑賞会

10月 7日(土)	「桜田門外ノ変」 原作:吉村昭 監督:佐藤純彌 出演:大沢たかお、長谷川京子 他 137分 (申込開始日 9月18日)
12月10日(日)	「キューポラのある街」 原作:早船ちよ 監督:浦山桐郎 出演:吉永小百合、浜田光夫 他 100分 (申込開始日 11月24日)

*午後1時30分～ 会場:講堂 定員:300名 無料
*電話または当館ホームページの「イベント」欄の申込みフォームからお申込みください。
先着順で定員になり次第締切となります。

閲覧室

入場
無料

閲覧室では、ご来館いただいた方に、より当館の資料に親しんでいただくため、所蔵している図書、雑誌を紹介する展示を定期的に行っています。企画展・特設展と連動した内容のほか、山梨ゆかりの文学者の資料も紹介します。展示資料は、直接手に取ってご覧いただくことができます。



閲覧室資料紹介

「昇仙峡文学散歩 御嶽昇仙峡名勝指定100周年記念」

9月27日(水)～10月26日(木)

「平安文学—源氏物語を中心に—」

10月28日(土)～12月17日(日)

「教科書に載った文芸作品」

1月30日(火)～ 4月 5日(金)

山梨の文学者 資料紹介

「小林一三 生誕150年」

9月27日(水)～10月26日(木)

「誕生日にちなんだ資料紹介 菊島隆三」

1月17日(水)～ 2月 4日(日)

「誕生日にちなんだ資料紹介 李良枝」

3月 1日(金)～ 3月24日(日)

寄贈資料より

(令和5年2月～7月)

- 興石靖氏より五味酒蝶選「山茶花に雲とゞこほる奥嶺かな」短冊など特殊資料8点、図書1点。
- 中村三恵子氏より中村星湖「渡欧及滞欧日記(1)」1点。
- 章瑋氏より「芥川龍之介「手帳七」考続貂」抜き刷り1点。
- 長沼裕男氏より柳原白蓮「初夏やしら百合の香に抱かれて寝るとおもひき若草の床」軸装1点。
- 池内規行氏より池内規行宛中込純次書簡など特殊資料24点、図書1点。
- 永田和宏氏より「ゆつくりと風の光をませながら岬の端二風車ハまはる」一枚物1点。
- 武田東洋一氏より「右左口尋常高等小学校卒業記念写真帖」など特殊資料24点。
- 三橋透氏より黒田杏子日川高校講演会写真1点、図書3点、雑誌1点。
- 伊藤まなみ氏より榎堂園立・榎堂花代結婚式写真パネル1点、図書2点。

次の皆様からも図書・雑誌をご寄贈いただきました。(敬称略)

青木(秋枝)美保	大村梓	小谷瑛輔	茅野真澄	濃野初美	前田貞昭	吉川豊子
秋山佐和子	奥山眞佐子	小山弘明	飛田則雄	秦恒平	松平盟子	若松昭子
雨宮更聞	小俣はる江	齋藤祐一	中西洋子	平松伴子	光本恵子	渡辺えり
安藤公美	亀山昭子	佐野秀延	中村章彦	藤島秀憲	望月光子	
石田順朗	川島幸希	清水昭三	中村吾郎	藤田博	矢野勝巳	
石原千秋	還田伊津子	田中祐光	西岡亜紀	前川博	山田健一郎	

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後7時 (土・日・祝は午後6時まで)
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分
カフェ	午前10時～午後5時 (オーダーストップ午後4時30分)

*営業時間は変更になる場合があります。

休館日(10～3月)

10月	2・10・16・23・30日
11月	6・13・21・27日
12月	4・11・18日
*年末年始は12月25日(月)～2024年1月1日(月)まで休館します。	
1月	22・29日
*1月9日(火)～15日(月)は館内整備等のため休館します。	
2月	5・13・19・26日
3月	4・11・18・25日

展示室観覧料

*11月20日(月)県民の日はどなたでも無料です。

	常設展(特設展)		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方(企画展は県内在住者のみ)、障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料です。
*団体料金は20名様以上の団体、県内宿泊者割引適用。

施設利用のお申込みについて

- 講堂・研修室・茶室のお申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の午前9時より受け付けます。文学館チケット売場まで申請者の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。
受付時間は午前9時～午後4時30分です。
- いずれも休館日は受け付けません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。

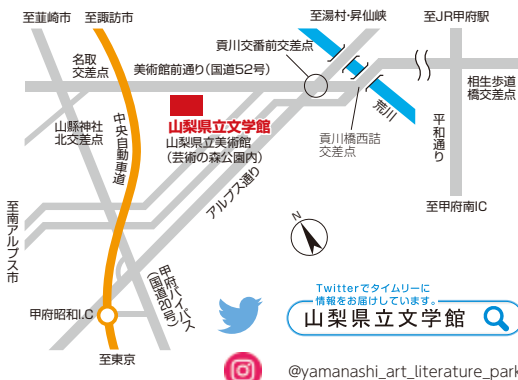
交通のご案内

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- 料金所を昇仙峡・諏訪方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

JR中央本線甲府駅より

- 甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川団地各行きバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は(山梨交通HP)よりお調べいただけます。
- タクシーで約15分。



Twitterでタイムリーに
情報をお届けしています。
[山梨県立文学館](#)

@yamanashi_art_literature_park

ホームページ



そのことばのつづきへ

山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL:055-235-8080 FAX:055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>